

中国地区について

今回の全国大会を機に合同チーム「ひとしおや」が発足しました！！

中国地区は、早くから岡山県、鳥取県、広島県が活動しており、四国地区や近畿地区を交えての交流戦などを実施しており、全国大会にも岡山県や鳥取県のチームが主体となったチームが参加しておりました。その後鳥根県でも活動が始まり、広がりが見えておりましたが、2019年からのコロナ禍の影響で鳥根県の活動が一時停止、縮小され、各県も練習ができない状況が続きました。しかし今回、第4回の全国大会（徳島大会）を機に、現在も活動を続けている3県の代表者を中心に（河合氏、横溝氏、松下氏、中村氏、織田）集まり協議を重ね、合同チームを結成し参加することとしました。これにより生まれたのが、「ひとしおや」になります。

ひとしおやの名前の由来について、命名者である「ひとしおや」初代監督となられた松下氏の命名理由の説明文より紹介させていただきます。

中国地区の5県(広島：ひろしま、鳥取：とっとり、鳥根：しまね、岡山：おかやま、山口：やまぐち)の県名の頭文字から一文字ずついただき、名付け親のひとしおや初代監督松下氏によって付けられました。

ひとしおやという名前には、次のような想いが込められています。

「ひとしおや」には、「ひとつしごとをやろうや」とも「ひとあせ、顔に汗の塩(しお)が出るくらい一生懸命やろうや」とも「日本の国技の相撲。力士がひとにぎりの塩(しお)をまいて土俵(どひょう)を清めます。大相撲では力士たちが土俵に塩をまく。... 場所に勝ち星が上がらず、とりあえず塩くらいは景気よくまこうや」という感じで大量の塩をまき始めたそうです。我がチームも景気よくという部分は似ています」とも、自由に想像することができる名前です。

「みんな違ってみんないい」。

スタッフはスタッフの仕事をし、選手は夢に向かう。みんなの夢がチーム名です。

現在、5県のうち3県ですが、全県が揃って参加する事も、この名前となった由来です。

「ひとしおや」のエンブレムは、次のものです。

(※こちらも、「ひとしおや」初代監督松下氏が作成されたものです。)



エンブレムのデザインの由来も松下氏の文書を紹介させていただきます。

各県のメンバーの輪。そして、県のイメージを色にしました。

鳥取県は「緑色」。自然のイメージ。日本遺産「三徳山」や「三朝温泉」。そして、大山。

島根県は「茶色」。太古の雰囲気。世界遺産『石見銀山遺跡とその文化的景観』。「玉造温泉」そして、縁結びの出雲大社。

岡山県は、県旗の地色の、「茄子紺色」。「桃」は有名ですが、「世界かんがい施設遺産」の「倉安川と百間川」。

広島県の県旗の地色は、「えんじ色」。世界遺産「厳島神社」の鳥居や「広島東洋カープ」の「赤色」にしました。

山口県は「オレンジ色」。夏みかんやガードレールのイメージ。世界遺産「萩の明治日本の産業革命遺産」、そして、400年の伝統を誇る萩焼きの色も想像できます。

このエンブレムを胸に、地区から出ている選手・スタッフとしての誇りを持って、いつか5県で一緒に参加という夢と共に、徳島大会と一緒に試合をしていただける相手チームの皆様にリスペクトを持って、全国という最高の舞台をそれぞれの想いを実現する場として楽しみたいと思います。

コロナ禍の影響で、まだ合同での練習などの直接的な交流はできていませんが、この大会を機に様々な交流につながるよう取り組んでいきたいと考えています。まずは、共通のユニフォームやスタッフのウェア作り、遠征を通してその土台作りをしているところです。

これからのチームですし、発展途上の地区ですが、応援よろしく願いいたします。